

様式 3

教員資格及び教育内容等の自己評価書様式

【自己評価 1-1】専任教員の配置状況

学部 ・学科等 の名称	専任教員数							非常 勤教 員	専任教員 一人あた りの在籍 学生数	備考
	教授	准教 授	講師	助教	計	基準 数	うち 理学 療法 士又 は作 業療 法士 数			
理学療法 学科	人	人	8人	人	8人	6人	8人	人	人	13.9人
作業療法 学科	人	人	7人	人	7人	6人	7人	人	人	7.4人
計	人	人	15人	人	15人	12人	15人	人	人	—

【自己評価 1-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正であり、かつ関連領域を教授できる医師等の専門家が配置されている。	3
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正である。	2
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の人数が適正でない。	1

【自己評価 1-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	全ての養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	4
	9割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	3
	8割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	2
	上記以外である。	1

【自己評価 1-4】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、全員が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	3
○	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、一部が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	2
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、臨床に携わることで臨床能力の向上に努めていない。	1

【自己評価 2-1】 養成施設指導ガイドラインとの連動状況

理学療法学科

分野 (基礎・ 専門基礎 ・専門)	指定規則 教育内容	相当授業 科目名	担当 コマ 数	担当教員	
				氏名	職名 (専任・兼任)
基礎	科学的思考の基盤・人間 と生活・社会の理解 1 4	医療倫理 I	8	渡部 里佳	理学療法士 専任
		情報処理演習	6	石川 拓実	理学療法士 専任
		情報処理演習	4	武市 良子	理学療法士 専任
専門基礎	人体の構造と機能及び心 身の発達 1 2	生理学実習	15	武市 良子	理学療法士 専任
		運動学	60	渡部 里佳	理学療法士 専任
専門	基礎理学療法学 6	理学療法概論 I	30	藤原 雅弘	理学療法士 専任
専門		臨床運動学	15	岩本 英毅	理学療法士 専任
専門		運動学実習 I	5	岩本 英毅	理学療法士 専任
専門		運動学実習 I	5	武市 良子	理学療法士 専任

専門		運動学実習Ⅰ	5	内田 勝之	理学療法士 専任
専門		運動学実習Ⅱ	15	土居 誠治	理学療法士 専任
専門	理学療法管理学 2	理学療法学概論Ⅱ	8	藤原 雅弘	理学療法士 専任
		理学療法学概論Ⅲ	8	藤原 雅弘	理学療法士 専任
専門	理学療法評価学 6	理学療法評価学Ⅰ	15	楠 大吾	理学療法士 専任
専門		理学療法評価学Ⅰ	15	石川 拓実	理学療法士 専任
専門		理学療法評価学Ⅱ	15	内田 勝之	理学療法士 専任
専門		理学療法評価学Ⅱ	7	武市 良子	理学療法士 専任
専門		理学療法評価学Ⅱ	8	石川 拓実	理学療法士 専任
専門		理学療法技術論Ⅰ	60	土居 誠治	理学療法士 専任
専門	理学療法治療学 20	運動療法総論	15	渡部 里佳	理学療法士 専任
専門		運動療法学Ⅱ	30	藤原 雅弘	理学療法士 専任
		運動療法学Ⅲ	15	岩本 英毅	理学療法士 専任
専門		運動療法学Ⅳ	15	岩本 英毅	理学療法士 専任
専門		日常生活動作学Ⅰ	30	楠 大吾	理学療法士 専任
専門		物理療法学	46	内田 勝之	理学療法士 専任

専門		理学療法技術論Ⅱ	9	楠 大吾	理学療法士 専任
専門		理学療法技術論Ⅱ	6	石川 拓実	理学療法士 専任
専門		理学療法技術論Ⅱ	15	内田 勝之	理学療法士 専任
専門	地域理学療法学3	日常生活動作学Ⅱ	8	武市 良子	理学療法士 専任

【自己評価 2-1】 養成施設指導ガイドラインとの連動状況

作業療法学科

分野 (基礎・ 専門基礎 ・専門)	指定規則 教育内容	相当授業 科目名	担当 コマ 数	担当教員	
				氏名	職名 (専任・兼任)
基礎	科学的思考の基盤・ 人間と生活・社会の 理解	医療倫理Ⅰ	8	大西 真二	作業療法士 専任
		情報処理演習	3	大西 真二	作業療法士 専任
		情報処理演習	3	丹生谷 哲哉	作業療法士 専任
専門基礎	人体の構造と機能及 び心身の発達	生理学実習	4	大西 真二	作業療法士 専任
		生理学実習	4	安永 修久	作業療法士 専任
		生理学実習	4	丹生谷 哲哉	作業療法士 専任
		生理学実習	3	受川 透	作業療法士 専任
		運動学	60	福田 靖	作業療法士 専任
		運動学実習	15	安永 修久	作業療法士 専任
専門	基礎作業療法学	作業療法概論Ⅰ	15	三澤 一登	作業療法士 専任
		作業療法概論Ⅱ	7	受川 透	作業療法士 専任

		基礎作業学Ⅰ	30	木下 清美	作業療法士 専任
		基礎作業学Ⅰ	6	大西 真二	作業療法士 専任
		基礎作業学Ⅱ	9	木下 清美	作業療法士 専任
		基礎作業学Ⅱ	3	丹生谷 哲哉	作業療法士 専任
		基礎作業学Ⅱ	10	安永 修久	作業療法士 専任
専門	作業療法管理学	作業療法概論Ⅰ (管理学)	15	三澤 一登	作業療法士 専任
		作業療法概論Ⅱ	8	三澤 一登	作業療法士 専任
専門	作業療法評価学	作業療法評価学Ⅰ	1	大西 真二	作業療法士 専任
		作業療法評価学Ⅰ	6	木下 清美	作業療法士 専任
		作業療法評価学Ⅰ	8	安永 修久	作業療法士 専任
		作業療法評価学Ⅱ	22	大西 真二	作業療法士 専任
		作業療法評価学Ⅱ	8	木下 清美	作業療法士 専任
		作業療法評価学Ⅱ	6	安永 修久	作業療法士 専任
		作業療法評価学Ⅱ	2	丹生谷 哲哉	作業療法士 専任
		評価学Ⅲ	30	各教員	作業療法士 専任
専門	作業療法治療学	作業療法治療学総 論	15	三澤 一登	作業療法士 専任
		身体障害治療学 (高次機能障害)	10	木下 清美	作業療法士 専任
		身体障害治療学 (脊髄損傷)	10	安永 修久	作業療法士 専任
		精神障害治療学Ⅰ	15	大西 真二	作業療法士 専任
		発達障害治療学	10	受川 透	作業療法士 専任

		発達障害治療学	15	三澤 一登	作業療法士 専任
		老年期障害治療学	15	木下 清美	作業療法士 専任
		義肢装具治療学	15	福田 靖	作業療法士 専任
		日常生活治療学	15	丹生谷 哲哉	作業療法士 専任
		職業関連治療学	7	丹生谷 哲哉	作業療法士 専任
専門	地域作業療法学	生活行為向上メ ジメント論	10	丹生谷 哲哉	作業療法士 専任
		地域作業療法学	10	丹生谷 哲哉	作業療法士 専任

【自己評価 2-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程を体系的に編成している。	3
	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程をおおむね体系的に編成している。	2
	養成施設指導ガイドラインに基づいていない、または教育課程を体系的に編成していない。	1

【自己評価 2-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	4
	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法をおおむね明記している。または、大半の授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	3
	シラバスの記載が十分ではない。	2
	シラバスが作成されていない。	1

【自己評価 3-1】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施している。	4
○	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習をおおむね実施している。	3
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を十分に実施していない。	2
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施していない。	1

【自己評価 3-2】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	講義と関連の実習が十分に連動して実施されている。	4
	講義と関連の実習がおおむね連動して実施されている。	3
	講義と関連の実習が十分に連動して実施されていない。	2
	講義と関連の実習が連動して実施されていない。	1

●基本情報：臨床実習の見学又は実践する範囲とそれに関連する講義科目それぞれの開講時期を記入してください。

理学療法学科

臨床実習の見学又は実践する範囲	開講時期	関連講義名	開講時期
通所、訪問リハビリテーションの見学実習	2 年前期	生活環境論	2 年前期
		理学療法技術論Ⅲ	2 年後期
臨床実習	3 年前・後期	理学療法評価学Ⅲ	3 年前期

作業療法学科

臨床実習の見学又は実践する範囲	開講時期	関連講義名	開講時期
通所、訪問リハビリテーションの見学実習	2 年前期	臨床実習	2 年前期
臨床実習	3 年前・後期	臨床実習	3 年前・後期

【自己評価 3-3】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で十分な臨床実習が実施されている。	3
○	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で一部の臨床実習が実施されている。	2
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設を置いていない。	1

【自己評価 3-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	適正な臨床実習指導者の下で実習が実施されている。	4
	適正な教員の監督指導の下で実習がおおむね実施されている。	3
	適正な教員の監督指導の下で実習が十分に実施されていない。	2
	適正な教員の監督指導の下で実習が実施されていない。	1

【自己評価 3-5】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制があり、対応が十分である。	3
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制はあるが、対応が十分でない。	2
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制がなく、対応も不十分である。	1

【自己評価 4-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	自己点検・評価の体制があり、改善に向けて機能している。	3
	自己点検・評価の体制はあるが、改善に向けて機能していない。	2
	自己点検・評価の体制がない。	1

●基本情報：自己点検・評価体制記入してください。

自己点検・評価組織名	FD 委員会
委員名（委員長）	岩本 英毅
組織の開催頻度	1～2ヶ月に一度
組織の取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内容の改善 ・シラバス内容のチェックと改善
自己点検・評価結果の公表	HPで公表（URL： https://www.esm-juzen.ac.jp/gakko-hyoka/index.html ）

【自己評価 4-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバス記載内容を改善する仕組みがあり、シラバスの記載内容の改善が行われている。	3
	シラバス記載内容を改善する仕組みはあるが、シラバスの記載内容の改善は十分ではない。	2
	シラバス記載内容を改善する仕組みがない。	1

●基本情報：シラバス記載内容を改善する仕組みについて記入してください。

該当する 仕組み	名称	FD委員会
	委員構成等	両学科長を含む、各学科の役職者
	改善の仕組みの実際	FD委員会で協議されたことを学科長が担当講師につたえ、シラバス内容を改善している。前期、後期に学生による授業評価を実施している。

【自己評価 4-3】自己点検・評価及び第三者評価の結果を改善に繋げるための取り組みを記入してください。

「R5 年度案」

「養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習をおおむね実施している。」に関しては、臨床実習指導者連絡会議や実習指導訪問時、厚生労働省指定の臨床実習指導者講習会などで、実習指導者をお願いして、診療参加型による臨床実習への移行を周知している。外部委員を含む会議を開催し、いただいた意見をまとめて、各学科で共有し改善できるように取り組んでいる。

「専任教員が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めているか」は併設の附属病院、関連の老人保健施設において臨床に関わる機会を増やすよう取り組んでいる。

FD委員会でシラバスの内容を改善する仕組みがあり、気が付いた点を担当講師に伝え内容修正をしている。

前期、後期に分けて学生による授業評価も行い、学科長がアンケートを確認し改善点があれば教員へ指導し、学生の意見を講義に反映できるようにしている。

保護者会及び保護者役員会、保護者面談を開催し、意見をもらい、それを反映して改善するようにしている。

「R4 年度」

「養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習をおおむね実施している。」に関しては、臨床実習指導者会議や実習指導訪問時などで、実習指導者をお願いして、診療参加型による臨床実習にしてもらう。第三者から頂いた意見をまとめて、改善できるように取り組んでいる。

「専任教員が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めているか」は臨床に関わる機会を増やすよう取り組んでいる。

FD委員会でシラバスの内容を改善する仕組みがあり、気が付いた点を担当講師に伝え内容修正をしている。

前期、後期に分けて学生による授業評価も行い、学生の意見も反映できるようにしている。

保護者会及び保護者役員会を開催し、意見をもらい、それを反映して改善するようにしている。